



令和8年1月23日(金)発行
校長 栗原友恵
北九州市小倉南区上貫三丁目1番1号
HP: www.kita9.ed.jp/nuki-e/
TEL: (093) 471-7030

＜校訓＞ やさしく かしこく たくましく
＜学校教育目標＞
優しい心とたくましさをそなえ、
自ら学び自ら考え行動する実践力のある子どもの育成
＜目標子どもの像＞
○優しい心をもち、相手のことを考え行動できる子ども
○自ら学び、豊かな思考力と表現力がある子ども
○健康でたくましく、最後までやり遂げる子ども
＜目標学校像＞
○子どもが「この学校で学びたい」と思う学校
○保護者・地域が「この学校で学ばせたい」と思う学校
○職員が「この学校で働きたい」と思う学校

家庭数

全国学力・学習状況調査 特集号

今年度4月17日(木)に行われた小学6年生及び中学3年生を対象とする「全国学力・学習状況調査」につきまして、個人の結果は既にお知らせしています。今回は、その結果を基に、今後の学習についてどのように取り組んでいくかをまとめました。(貫小学校HPにも掲載しています。)

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日(木)に、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」、文部科学省が指定した日(4月18日から4月30日の間)に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知りたいとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

I. 教科に関する調査結果の概要

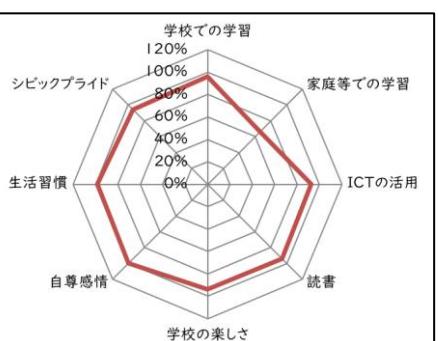
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

学力調査の分析(傾向や特徴)	
国語	「読むこと」「話すこと・聞くこと」に関する思考・判断・表現力等に課題がある。時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを見付ける問題はよくできている。目的に応じて、文章と図表などを結び付けて考えたり、必要な情報を見付けて文で書いたりする問題は努力が必要である。
数学	問題文の意図を正しく読み取って解くことや、回答についての理由を述べることに課題がある。 $1/2 + 1/3$ 等の異分母の分数のたし算の問題、はかりの目盛りを読む問題はよくできている。数直線上に示された数を分数で書く問題は努力が必要である。
理科	実験や観察の結果から考察したことを書いたり、新たな課題を見いだしたりすることに課題がある。ヘチマの花のつくりや受粉について書く問題や顕微鏡の操作に関する問題はよくできている。発芽の条件について気付いたことを基にして、新たな課題を見付けて書く問題は努力が必要である。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



- 「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問い合わせに対して85%以上の児童生徒が肯定的に回答している。
- 主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「分かった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。
- 家庭での学習時間が少ないとから、宿題の出し方や自主的な学習について校内で再度検討するとともに、家庭と連携して「メディアの時間の短縮」「学習時間を決める」等、家庭学習の習慣化を図る必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ICTの効果的な利活用を今後も一層推進する。
- 話し合う活動を通して、自分の考えを書いて発表し、「比べ合う」「深める」場面を更に増やす。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習については、児童の自主学習の習慣が定着するように今後も定期的に表彰し、啓発する。学校・学年通 信やホームページで、保護者に家庭学習の啓発を行い、協力を得るようにする。
- 携帯電話などを使用する時間が長い傾向があるため、学校と家庭が連携し、望ましい学習習慣の確立に取り組む。
- 学習の基礎・基本事項の徹底を図る。